

令和5年度 病理昆虫研究室 試験計画概要

中課題	小課題	細目課題	研究内容	新継年次別
いちごの新品種育成(促成用品種の育成) (昭44～)	促成および周年生産用品種の育成	いちごの主要病害に対する耐病性系統の選抜	耐病性品種を育成するため、萎黄病・炭疽病に対する耐病性を明らかにする。併せて、耐病性素材等の検索を行う。	継 続 平20～
	健全ないちご原々苗の育成	イチゴ萎黄病・炭疽病・ウイルス病の検定	いちご原々苗についてイチゴ萎黄病・炭疽病・ウイルス病の検定を行う。	継 続 平31～
いちごのアザミウマ類のIPM防除体系の確立 (令4～6)	アザミウマ類防除体系の実証	—	定植時施用剤・天敵製剤の効果的な組合せによる防除体系の効果を実証する。	新 規 令5～6
にらのネダニ類に対するIPM防除体系の確立 (令4～6)	緑肥栽培による防除効果の検証	—	にら作付前の各種緑肥栽培とすき込みによるネダニ類密度への影響を明らかにする。	継 続 令5
	かき殻石灰等の施用による防除効果の検証	—	作付け前のかき殻石灰等の施用による効果を解明する。	新 規 令5
	天敵資材を用いた防除効果の検証	—	ネダニ類の天敵による抑制効果を検証する。	新 規 令5
イチゴ萎黄病菌の病原性分化の解明 (令5～7)	イチゴ萎黄病菌の分類	—	保存菌株の病原性関連遺伝子の検出により遺伝的グループを分類する。	新 規 令5
	病原性の解明	—	いちご品種への接種試験により遺伝グループの病原性を明らかにする。	新 規 令5
	分布状況の解明	—	県内いちご栽培ほ場から採取した萎黄病菌を遺伝グループに基づいて分類し、萎黄病菌の分布状況を明らかにする。	新 規 令5～6
環境低負荷のカミキリ飛来・産卵阻止技術の開発と実証 (令4～7)	成虫の飛来阻止技術の開発	—	網室内で、室内試験で選抜した資材の有効性を検証する。	継 続 令4～5
	産卵阻止技術の開発	—	網室内で、室内試験で選抜した資材の有効性を検証する。	継 続 令4～5
	現地モモ生産ほ場での防除体系の実証	飛来阻止資材の現地実証	有効性が明らかとなった飛来・産卵阻止技術を用いた防除体系について、現地モモ園で実証を行う。	新 規 令5～7
新しい殺菌剤・殺虫剤・資材等の選抜および利用法の確立(昭40～)	新農薬選定試験	—	主要農作物病害虫に対する新農薬の実用的な防除効果を検討する。	継 続 昭40～
	新防除技術実用化試験	—	主要農作物病害虫に対する新防除技術の実用的な防除効果を検討する。	継 続 平27～